

4.4 浜寺水路における活性化方策

4.4.1 浜寺水路の現状

浜寺水路は以下のような交通条件、立地条件、地理的条件を有しています。



※航空写真は大阪府より提供

図 浜寺水路概観

<交通条件>

- ・ 阪堺電気軌道（終着駅）、南海本線、浜寺公園から徒歩圏です。
- ・ 浜寺公園駅前線の完成により鉄道駅から歩行者が快適にアクセスできます。
- ・ 常磐浜寺線の完成により自動車による内陸部からのアクセス性向上が期待できます。

<立地条件>

- ・ ミニ干潟で地元小中学生を対象とした環境学習が活発化しています。
- ・ 家族連れやカップルなどが訪れる府営浜寺公園に隣接しています。

<地理的条件>

- ・ レガッタ競技が行われる静穏な海域を有しています。
- ・ 公園に隣接し長い階段式護岸を有しています。

4.4.2 活性化コンセプト等

(1) 活性化コンセプト

浜寺水路は、静穏な水域を有しておりこれを活用した環境学習等が実施されています。また、府営浜寺公園が隣接しており市民の憩いの場となっている。更に当地区は駅に近接しておりアクセス性に優れています。

以上より、「親水」と「交流」に着目した

「公園と一体となった親水・市民活動の拠点」

を浜寺水路の活性化コンセプトとし、「エンターテイメント・エドツーリズム」を戦略プログラムとして施策を展開します。

(2) 取組み内容

市民・子どもたちが海や生き物と触れ合える場の確保や海洋性のレクリエーション活動の向上（エンターテイメント）を図るとともに、環境教育の場としての活用を更に高める（エド）ことにより、阪堺電気軌道の利用促進に貢献します。

(3) 主な対象者

- ・ スポーツ・環境活動に訪れる市民、NPO、浜寺公園に訪れる市民や子ども
- ・ 浜寺水路でのイベント・レクリエーション活動に参加する広域からの来訪者

4.4.3 利活用ゾーニング

浜寺水路の活性化コンセプトである「公園と一体となった親水・市民活動の拠点」を実現するため、利活用ゾーニングを以下のとおりとしました。

水域部分は、静穏で幅が広い水面空間を有し、今後さらなる有効活用を行う必要があることから「**水面利用ゾーン**」と位置づけます。

護岸前面部分は、臨海部で数少ない海水に触れられる箇所であり、環境学習の場として更なる利活用が必要であることから、「**親水ゾーン**」と位置づけます。

浜寺公園は、広域な緑地を有しており様々な市民活動が実施されている他、市民の交流の場として利活用され、また背後の阪堺電気軌道の利用を考慮に入れた水路と公園の一体利用を行うため、「**交流ゾーン**」と位置づけます。

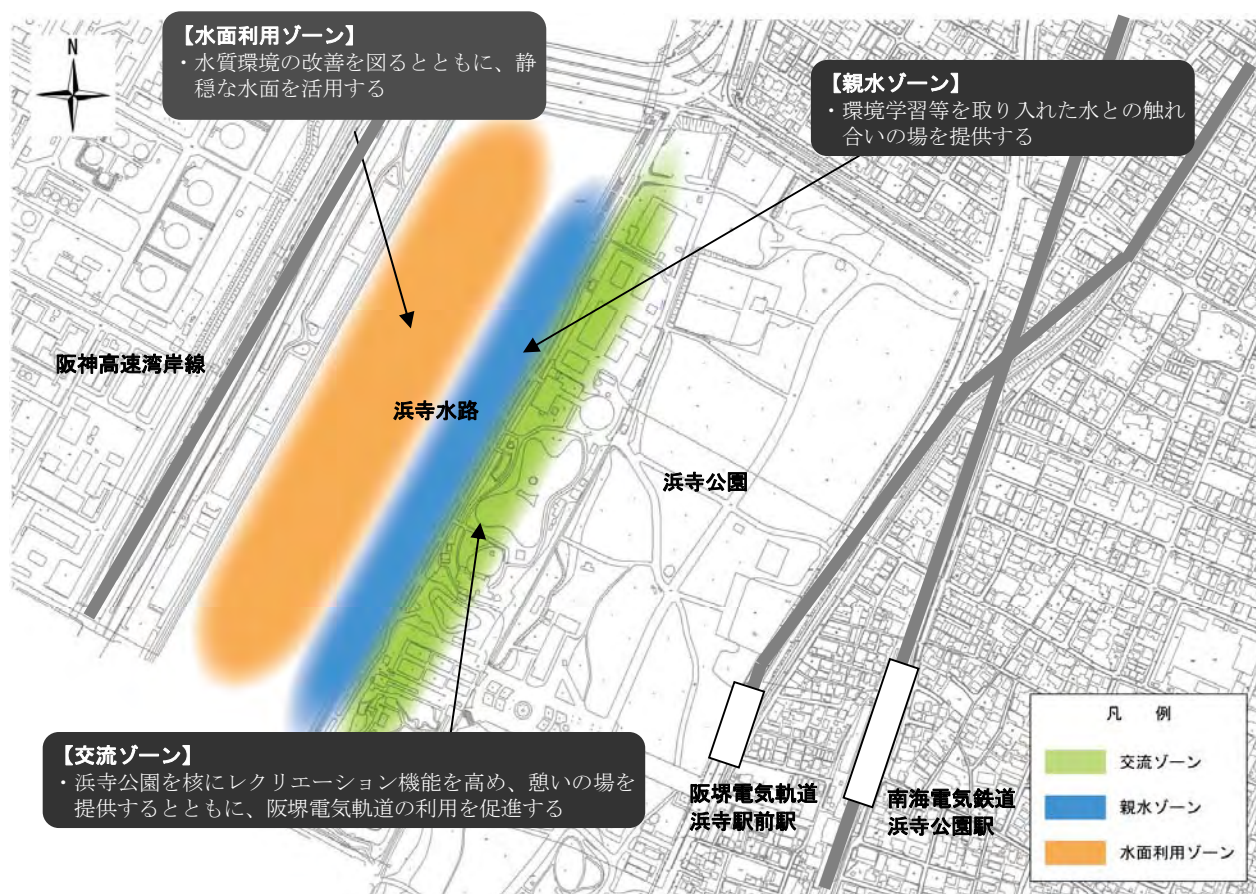


図 浜寺水路の利活用ゾーニング

4.4.4 コンセプト実現に向けた課題及び活性化方策

浜寺水路におけるコンセプト実現に向けた課題、活性化方策及び施策メニューは以下のとおりです。

コンセプト実現に向けた課題		活性化方策		施策メニュー※
①浜寺水路の活性化	①底寺水路の活性化 府立浜寺清掃場があり、昭和43年から浜寺水路において国内・国際の潮乾大会が開催されており、水域が活用されているが、限られたスペースの場となっている。 水路前面の親水護岸は、浜寺大橋や工場群に夜間ライトアップなど良好な視点となっている。市民からのニーズにおいては、水辺に親しめる場所の整備の推進を望む声が上がっている。 ②環境学習の場としての更なる活用 親水護岸は、海や生き物と触れあうことができる環境学習の場として活用されている。 浜寺公園においては自然観察の会が開催され、植物や昆虫などの様々な生物との触れ合いの場としても活用されている。 市民からのニーズにおいては、環境学習の継続、自然と触れ合うことができる場所の整備を望む声が上がっている。 ③海との触れ合いの場の創出 浜寺水路は、昭和初期までは有数の賑わいのある海岸であったが、当時の面影はみられない。 浜寺水路の背後に日本最古の公立公園である浜寺公園が立地し、来訪者が賑わっている。最寄り駅から徒歩1～2分程度とアクセス性に優れている。 浜寺水路と浜寺公園が遊歩道により分断されており、親水護岸は公園側からの視界を遮るものとなっている。 ④深堀跡の水質改善 深堀跡が存在し、海成低層の貧酸素状態を引き起こし、水質が低下している可能性がある。 水質調査結果によると、環境基準を超えている箇所がみられる。 市民のニーズからはヘドロの浸透等による水質改善を望む声も上がっている。 水質改善の取組のひとつとして、親水護岸前面において浜寺校区自治連合会主導でコンブの養殖が実施されている。 ⑤河口ゴミの量の削減 現状では石津川からの河口ゴミが問題となっており、環境への影響や周辺の景観等を考えると、改善の必要がある。	①公園と水路が一体となった親水空間・自然環境の形成 ②陸域電気軌道利用促進に寄与するイベント開催・市民活動の展開 ③環境保全・創造に係る啓発・機運醸成・人材育成 ④地域の環境改善や地球環境への負荷軽減への寄与	現状の水路と公園が一体的に利用されていない状況を踏まえ、連続性をもたせ地形を創出する等により公園と水路が一体となった親水空間・自然環境の形成を図る。 イベントの誘致や環境学習の場の提供等により陸域電気軌道利用促進に寄与するイベント開催・市民活動の展開等を図る。 市民全体の環境学習の場の提供、市民との協働により、環境保全・創造に係る啓発・機運醸成・人材育成を推進する。 クリーンキャンペーン等を通じて地球環境問題や環境負荷軽減への対応を図る。 深堀の埋戻しや港内での表証実験等、水質改善により魅力的な水辺空間の形成を図る。	- 公園利用者が気軽に安全に海辺に近づくための連続性を確保 - 潮入りの内海など公園～水路間における自然的な地形・環境変化を創出 - 静穏な水路を活用し、アクセシビリティ・ドラゴンボート等の海洋性レクリエーション活動や各種イベントの開催 - レガッタの公式戦や市民大会の開催 - 全国の工場夜景観光都市と連携したシンポジウムなど工場景観・夜景スポットとしての集客・PR - 浜寺公園内のローカスカーニバル等のイベントとの連携 - 芸術家がアート(音・光・彫刻等)の展示・発表できる空間の整備 - ミニ干潟や水路を活用した市民主体の環境学習・自然観察・体験の促進 - アクトブリーチなど住民との協働によるみどり清掃の拡大 - クリーンキャンペーン等の啓発活動を通じた河口ゴミの削減 - 海辺からの栄養分流出防止のための覆砂や底質改善、深堀埋戻し、港内の旧地や浜寺水路を表証実験や社会実験のフィールドとしての活用検討

※ 施策メニューは活性化方策を要するにあたっての一例であり、今後具体的な検討を進め確定されるものである。